

図4 平成25年度からの国の健康づくり施策（第2次健康日本21）における医療保険者の役割

★ 保険者の役割

取り組み主体		生涯における各段階（あらゆる世代）									
		妊娠 胎児(妊婦)	出生 0才	乳幼児期	学童 18才	若年期 20才 働く世代(労働者)	中年期 40才	高齢期 65才	75才	死亡	
個人で達成すべき目標	市町村 医療保険者	個人	母子保健	食育	精神保健	健康づくり対策	介護予防				
		家庭	<ul style="list-style-type: none"> □適正体重の子どもの増加 ア 全出生数中の低出生体重児の割合の減少 イ 肥満傾向にある子どもの割合の減少 □健康な生活習慣(栄養・食生活、運動)を有する子どもの割合の増加 ア 朝・昼・夜の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの割合の増加 イ 運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合の増加 □共食の増加(食事を1人で食べる子どもの割合の減少) □乳幼児・学齢期のう蝕のない者の増加 □過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加 □妊娠中の飲酒をなくす □妊娠中の喫煙をなくす □未成年者の飲酒をなくす □未成年者の喫煙をなくす 	<ul style="list-style-type: none"> □歯周病を有する者の割合の減少 □がん検診の受診率の向上 □睡眠による休養を十分とれていない者の減少 □気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者の割合の減少 	<ul style="list-style-type: none"> □特定健診・特定保健指導の実施率の向上 □適正体重を維持している人の増加(肥満、やせの減少) □メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少 □治療継続者の割合の増加 □高血圧の改善(収縮期血圧の平均値の低下) □脂質異常症の減少 □適切な量と質の食事をとる者の増加(主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合の増加、食塩摂取量の減少、野菜と果物摂取量の増加) □日常生活における歩数の増加 □運動習慣者の割合の増加 □歯の喪失防止 □生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少 □成人の喫煙率の減少 	<ul style="list-style-type: none"> □脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少 □糖尿病有病者の増加の抑制 □血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少(HbA1cがJDS8.0%以上の者の割合の減少) □合併症(糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数)の減少 □介護保険サービス利用者の増加の抑制 □低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の割合の増加の抑制 □足腰に痛みのある高齢者の割合の減少 □口腔機能の維持・向上 □75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少 □自殺者数の減少 					
		地域	<ul style="list-style-type: none"> □地域のつながりの強化 □健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている国民の割合の増加 	<ul style="list-style-type: none"> □認知機能低下ハイリスク高齢者の把握率の向上 □就業または何らかの地域活動をしている高齢者の割合の増加 							
		職域	<ul style="list-style-type: none"> □受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する者の割合の減少 □メンタルヘルスに関する措置を受けられる職場の割合の増加 □週労働時間60時間以上の雇用者の割合の減少 □健康づくりに関する活動に取り組み、自発的に情報発信を行う企業登録数の増加 □食品中の食塩や脂肪の低減に取り組み、食品企业及び飲食店の登録数の増加 □利用者に応じた食事の計画、調理及び栄養の評価、改善を実施している特定給食施設の割合の増加 □健康づくりに関して身近で気軽に専門的な支援・相談が受けられる民間団体の活動拠点数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> □住民が運動しやすいまちづくり・環境整備に取り組む自治体数の増加 □健康格差対策に取り組む自治体の増加 							
		都道府県	<ul style="list-style-type: none"> □小児人口10万人当たりの小児科医・児童精神科医師の割合の増加 	<ul style="list-style-type: none"> □健康寿命の延伸 □健康格差の縮小 							
国・マスメディア	<ul style="list-style-type: none"> □COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上 	<ul style="list-style-type: none"> □ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している国民の割合の増加 									